

## 報 告

小児科医における B 型肝炎ワクチン接種  
スケジュール差異の認識調査

垣内 俊彦, 松尾 宗明

## 〔論文要旨〕

目的：B型肝炎ワクチンの予防接種に従事する小児科医が、定期接種化直前の平成28年9月の時点で、母子感染予防の接種スケジュールとの差異を認識しているかを評価するために質問紙調査を実施した。

対象と方法：平成28年9月1～15日の間に、佐賀県内の小児科標榜のある6つの基幹病院で、卒後10年目以内の小児科医に質問調査用紙を郵送し回答を得た。

結果：対象者26人中20人（76.9%）より回答を得た。B型肝炎ワクチン接種スケジュールのうち、母子感染予防・定期接種ともに20人中19人（95%）が既に把握していた。母子健康手帳における予防接種の記録欄で、母子感染予防とそれ以外とで区別がないことは13人（65%）のみ認知している結果であった。

考察：母子感染予防と定期接種化の接種スケジュール差異はほぼ把握されていたが、母子健康手帳の記録では区別がないことの認知度は低く、定期接種が始まった後に混乱を生じる可能性が示された。

結論：B型肝炎ワクチン接種スケジュールの差異は定期接種化前から概ね把握されていた。

Key words：B型肝炎ワクチン, 母子感染予防, 定期接種化

## I. 目的

厚生労働省の予防接種基本方針部会は、B型肝炎ワクチンを平成28年10月から、0歳児を対象者として原則無料で接種可能とする定期接種化を決定<sup>1)</sup>、実際に開始となった。昭和61年（1986年）よりB型肝炎母子感染防止事業が既に行われており、接種スケジュールの相違があることから混乱を招くことが懸念された<sup>2)</sup>。

本調査では、実際にB型肝炎ワクチンの予防接種に従事する小児科医が、B型肝炎ワクチン定期接種化直前の平成28年9月の時点で、母子感染予防と定期接種化での接種スケジュールの差異を認識しているかを評価するために質問紙調査を実施した。また、接種の際に現場で利用される母子健康手帳の記録欄についての認識を調査した。

## II. 対象と方法

平成28年9月1～15日の間に、佐賀県内の小児科標榜のある6つの基幹病院で、卒後10年目以内の小児科医に質問調査用紙（図）を郵送し回答を得た。本県の現状として、母親がB型肝炎キャリアである場合は、産科より6つの基幹病院の小児科に出産前に相談され、出産自体が基幹病院で行われることが多いこと、また産科クリニックでの出産の場合でも、出生後1回目の接種終了後からは、6つの基幹病院小児科へ紹介される例が多いことがある。基幹病院の小児科の中でも、特に卒後10年目までの小児科医が、実際のB型肝炎母子感染予防の担い手である可能性が高いことが推測される。B型肝炎ワクチン接種に関して、母子感染予防と定期接種との両方の担い手であることが予想される卒後10年目までの小児科医を調査対象とした。

B型肝炎ワクチンに関する質問紙調査			
B型肝炎ワクチン定期接種化に向けて、ワクチン接種についての実態把握のための質問紙調査を企画しました。 下記質問への回答にご協力下さいますようお願い申し上げます。			
佐賀大学医学部小児科 助教 垣内 俊彦			
問 以下の質問に当てはまるものに○をつけて下さい。			
1. 本年10月より、公費助成により定期接種化されることをご存知ですか。	知っている	知らない	どちらとも言えない
2. 母子感染予防におけるワクチン接種時期をご存知ですか。	知っている	知らない	どちらとも言えない
3. 定期接種におけるワクチン接種時期をご存知ですか。	知っている	知らない	どちらとも言えない
4. 現在の母子手帳では、母子感染予防と定期接種での接種が区別されていないことをご存知ですか。	知っている	知らない	どちらとも言えない

図 B型肝炎ワクチンに関する質問調査用紙

なお、調査対象者には質問紙調査についての意義を十分に説明し、個人情報に関しては厳格に管理することとし同意を得た。本調査は、佐賀大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会の承認（承認番号2014-10-10）を受けて実施した。

### III. 結 果

対象者26人中20人（76.9%）より回答を得た。B型肝炎ワクチンが定期接種化されることを20人全員が既に認知していた。

#### 1. B型肝炎ウイルス母子感染予防のスケジュールの認知

B型肝炎ウイルス母子感染予防のB型肝炎ワクチン接種スケジュールを調査した。20人中19人（95%）が認知しており、1人（5%）が認知していなかった。

#### 2. B型肝炎定期接種化後のスケジュールの認知

B型肝炎ワクチン定期接種化後のB型肝炎ワクチン接種スケジュールである、生後2か月以降に4週間以上あけて2回、1回目から20週以上あけて1回の合計3回の接種時期を認知しているかを調査した。20人中19人（95%）が把握しており、1人（5%）が認知していなかった。

#### 3. 母子健康手帳における予防接種の記録欄

母子健康手帳の予防接種の記録においてB型肝炎の欄で、現在、母子感染予防とそれ以外とで区別されていないことを認知しているかを調査した。20人中13人（65%）は認知しており、6人（30%）は認知しておらず、1人（5%）はどちらとも言えないとの回答であった。

### IV. 考 察

佐賀県内のB型肝炎ワクチン予防接種業務に従事しているほぼ全ての若手小児科医が、母子感染予防と定期接種化の接種スケジュール差異を認知していた。母子健康手帳の記録欄では区別がないことの認知度は低く、定期接種が始まった後に混乱を生じる可能性が示された。

現在までに、B型肝炎ワクチンの接種スケジュールの差異についての医療者の認識についての報告は見当たらないが、本研究結果からは、定期接種化後の混乱は小さいものと考えられた。しかし、スケジュールの差異に関して、各々1人ずつ認知できていなかった小児科医もいることから、定期接種化後においても、十分な教育が必要であると思われる。ちなみに認知できていなかった各々1人は別人であった。

母子健康手帳における予防接種記録欄においてB型肝炎ワクチンの区別がないことの認知度は低く、定期接種化後に母子健康手帳への記録の際に混乱を生じる可能性があると思われる。その理由として、母子感染予防の対象者は定期接種対象者に比べると極少数ではあるが、母子感染予防ではグロブリン製剤の使用が必要である<sup>3)</sup>ことから本来の予防接種記録欄が使用されていないことが予想される。なぜなら、グロブリン製剤の記入欄がないことで、母子感染予防に関しては、予防接種記録欄以外に記録されているか、各病院やクリニックでの個別の記録欄を作成し、それを貼り付ける形で記録されている可能性が考えられる。また、日本では里帰り分娩などの特殊な事情があり、出産後のある時期における母子の住居移動に伴い、予防接種の実施者が途中で変わることが多い。その際に、予防接種実施者が、母子健康手帳の予防接種記録欄を見ただ

けでは、母子感染予防を実施すべき児を定期接種と間違える可能性、またその逆の可能性も考えられる。対策としては、現行の母子健康手帳に後から貼り付けられるような、全国統一した補充シートなどを作成することなどは、混乱を避ける手段になると思われる。予防接種の記録欄を見るだけで、母子感染予防と定期接種との区別がつくような工夫が必要であると考えられる。

今回の研究は限られた地域での調査であり、調査対象人数が少なく、全国規模で考えた際に、本研究結果と同様のことが言えるかは示すことができていない。また、対象者を卒後10年目までとしたが、経験年数別による検討はできていない。既に定期接種化が実行された現時点では、他の地域も含めて両方のスケジュールを実施する機会のあるかかりつけ小児科医、産科医も含めた定期接種化後の検討を行うことは今後の課題である。

## V. 結 論

B型肝炎ワクチン接種に従事する小児科医は、母子感染予防と定期接種のスケジュールの差異が、定期接種化される前から概ね把握できていたが、今後母子健康手帳の予防接種の記録において工夫が必要である可能性がある。

本研究に係る学会発表および研究助成等はありません。利益相反に関する開示事項はありません。

## 文 献

- 1) 厚生労働省健康局健康課. “第14回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会議事録” [www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000115553.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000115553.html) (参照2016-10-03)
- 2) 乾 あやの, 小松陽樹, 岩澤堅太郎, 他. B型肝炎ワ

クチン—定期接種化へ向けて—, 小児科診療 2016; 79: 517-521.

- 3) 日本小児科学会. “B型肝炎ウイルス母子感染予防のための新しい指針, 2013” [http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content\\_id=141](http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=141) (参照2018-2-9)

## [Summary]

A survey questionnaire regarding hepatitis B vaccination was administered to pediatricians to evaluate awareness about the differences in vaccination schedules between prevention of mother-to-child transmission and routine vaccination before routine vaccination was to begin.

Between September 1 and 15, 2016, a questionnaire was mailed to pediatricians located in the Saga Prefecture who were within 10 years of graduation.

Responses were received from 20 of 26 pediatricians (76.9%). Nineteen (95%) of these were already aware about both mother-to-child infection prevention and routine vaccination with hepatitis B vaccine. Only 13 of 20 individuals (65%) were aware about the distinction between prevention of mother-to-child transmission and routine vaccination in the recording area of the Maternal and Child Health Handbook.

Pediatricians involved in hepatitis B vaccination were able to ascertain the difference between prevention of mother-to-child transmission and the routine vaccination schedule before periodic inoculation.

## [Key words]

Hepatitis B vaccination, prevention of mother-to-child transmission of hepatitis B virus, routine vaccination